



## 日本筆記具工業会

〒116-0013  
東京都荒川区西日暮里2-30-6  
TEL03-3891-6161 FAX03-3892-9692  
発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会  
URL <http://www.jwima.org>

## 第11回 通常総会 開催

### たいへんな1年、無事過ごせたことを確認し合う

本工業会は5月16日、上野精養軒にて「第11回通常総会」を開催しました。昨年は3月の東日本大震災にはじまり、ここ近年かつて経験したことのないような厳しい経営環境となった年でした。筆記具統計上でも第1四半期とそれ以降では歴然とした差が出ており、今回は、この1年を何とか無事に過ごせたことを確認し合う会員総会でもありました。議案としては、通常の事業報告・収支決算報告や事業計画・収支予算案の承認に加え、昨年ご逝去された坂本充章理事の補選として新たに坂本雅宣理事（株サカモト）の選任があり、すべて満場一致で承認されました。

その後会場を移して、経済産業省商務情報政策局日用品室の江川邦雄室長はじめ来賓の方々をお招きし、懇親会を開催しました。



開会挨拶  
数原英一郎 会長

#### 【会長挨拶 要旨】

昨年は、大震災、原発の事故、欧州の財政危機や円高など、大変な思いを致しました。

先ほどの総会でも発表がありました通り、業界の出荷が1%弱落ちてしまいましたが、しかしながら、国のGDPも1%以上のマイナスではな

かったかと思えます。それを考えますと、0.9%の落ちというのは大健闘したのではないのではないかと思います。これはひとえに本日お集まりの会員各社のご努力の結果だったと、嬉しく感じております。

本当の力というのは見せかけの力ではなく、平時ではなく苦難の時に現れるのが、本当の力ではないかと思えます。

昨年は、本当に心配をすることが多かったのですが、原発事故に伴い、メイドインジャパンプランドの信用崩壊が起きるのではない



かと大変心配いたしました。

1年たってみますと、どうやらこの危機は去ったのではないかと思います、これはやはり筆記具業界は当然のことながら、日本の産業界、メーカーは強いということが示されたのではないかと思います。

日本という国は、ものづくりで生きていくしかないと考えています。世間では、日本は人口が減っているから、この先は駄目だというような報道や意見がされていますが、それはまったくの誤解だと私は思っています。人口が減って、量的な拡大ができないとなれば、質の拡大をすれば良いのです。

もし人口減少により駄目になるというのであれば、北欧は当に没落してしまっていることとなります。要は安く売らず、高く売れば良いのです。また、逆にこうも言えるのだと思います。安くしなければ売れないものでなく、高くても売れるような商品を知恵出してものづくりを行っていくということが、日本の製造業の生きていく大きな方向ではないか、様々な識者の方たちと議論してもおっしゃられることであります。これは決して優しい道ではありませんし、容易なことではありません。でも、大きな目標を抱えてこそ、目的が達成していくことだと思います。

私は先週もアジアに行っておりましたが、アジアの人たちは日本の市場を見ている。日本で何が成功するかを見ている。もし、アジアで成功しようと思えば、日本で成功していなければ、アジアでも購入してくれないのではないかと思います。

そういう意味で、現在世間で言われているように、人口が減っているから日本市場は駄目だということではなく、日本の市場をますます大切にしていくことが、世界につながっていくという希望を忘れずに、日々精進して、ますます良い業界にしていくことをお願いを申し上げます、甚だ簡単ではございますが、ご挨拶にかえさせていただきます。 (了)



総会での閉会挨拶  
小川晃弘 副会長



乾杯の発声  
西村貞一 副会長



ご来賓を代表しての祝辞  
江川邦雄 日用品室長



中締め挨拶  
内田高行 常任理事



## ISO/TC10/WG18 オーランド会議 報告

2012.5.15～18 アメリカ・フロリダ州オーランド 報告:伊波 泰

ISO/TC10・WG18 オーランド会議（5月15日～18日）に、(株)サクラクレパスの塩井氏（convener）・藤田氏（expert）とともにペンてる(株)伊波（expert）が出席させていただきました。

今回のテーマは①安全キャップのISO規格の改正と②安全尾栓のISO化に関する討議です。2011年12月に終了したCD案（委員会原案）に関しては下記のような投票結果でした。

- ① 安全キャップについては、賛成 11カ国、反対は日本のみ 1カ国、棄権 4カ国
- ② 安全尾栓については、賛成 10カ国、反対は日本と韓国の2カ国、棄権 4カ国

そして、この2件に対する各国コメントについて討議し、問題を解消させてWG18として合意を得ることがこの会議のねらいです。

日本としては、

- ①の安全キャップについては、主に「CD案は適用範囲がほとんどのペンにまで広げる内容であり、日本は現状のISO11540のままの14歳以下の子供向けペンに対象を限定する。」こと。
- ②の安全尾栓については、「イギリスとイタリアの2件しか死亡事故が確認されておらず、キャップに比べて事故は極めて少ない。また、日本での事故は確認されておらず、英国人の習癖によるもので国際規格にする必要はない。又CD案の内容に関して不明瞭な項目が多く規格としては不十分である。」ということを中心に議論を進める。

特に安全尾栓がISO化された場合、筆記具メーカーに非常に大きい経済的負担（設計や仕様変更及び金型・製造設備の変更等）がかかるなど、目に見えない大きなプレッシャーを背負って、日本の意向を反映させるべく代表3名は強い決意でアメリカに向かいました。

日本だけでなくアメリカの状況についても出席者のメンバーに理解してもらうため、現地アメ



リカのストリー氏（ペンてるオブアメリカ）にも参加をお願いしたところ、快く応じていただきました。

会議の前日には英国のエキスパートの2名と日・米の参加者による話し合いを行いました。日本ではペンを噛む習慣も事故例もないことを再度説明し、アメリカでも同様にペンを噛む習慣も事故もないことを説明しました。英国からは、自国では噛むことは当たり前で噛まない教育もしているが、噛む人は相変わらず多い状況であり、安全キャップ・安全尾栓の規格は必要である。投票の結果も英国のCD案が大多数の賛成を得ていることを強調して強気な姿勢で平行線のまま翌日のWG18会議に臨みました。

会議では前日に打ち合わせを行ったメンバー以外にフランス、スウェーデンからも参加があり、合計5カ国によりCD投票に出たコメントについて一つずつ討議を行いました。

日本の適用範囲のコメントの討議になったところで「ISO専門業務と規格類の国際市場性」に関するISO/TMBルール（特定の国または地域の特性や要求事項を優先しない）を説明して、「この案件はISO規格として適合しないのでは？」との問いかけをしたところ、出席していたスウェーデンのTC10事務局も「英国独自の習慣に基づくものである。」という理解を表明し、これによって英国側も安全尾栓をDIS投票に出すことを諦め渋々取り下げることとなりました。

安全キャップについては既にISO化されているため、日本側も安全尾栓を取り下げるのであれば安全キャップのDIS投票への進捗を認めることにしました。（国内で前もって協議済み）

会議の結論は、ほぼ日本の意見が取り入れられる形となりました。このような結果になったのも日本の筆記具メーカーが一丸となって取り組んだ成果だと思います。今後共皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。（以上）



## 鉛筆組合 創立 100 周年記念 植樹式 報告

日本鉛筆工業協同組合は、今年で創立 100 周年を迎え、それを記念して「鉛筆の木」であるインセンスシダーの「植樹式」を、4 月 14 日（土）地元荒川区の第三日暮里小学校で開催しました。

あいにく当日は雨天のため、校庭での植樹式はできませんでしたが、体育館に児童や父兄 400 人が集まり、児童代表に鉛筆組合の数原英一郎理事長より苗木と記念品の贈呈が行われました。



植樹式には、学校関係者、荒川区関係者、鉛筆組合員らが出席し、はじめに数原理事長より、「鉛筆組合は、大正元年（明治45年1月10日）に当時の鉛筆製造業者が集まり、鉛筆の改良発展を目的として設立した組合で、今年でちょうど100周年を迎えることとなりました。当時の政府は、子供たちが身分や貧富、男女の別なく平等に教育が受けられるようにと、全国に数多くの学校を作りました。そして、義務教育の普及とともに鉛筆の需要は急速に高まり、ここ荒川区を中心に鉛筆会社がたくさんでき、多くの子どもたちが日本の役に立つ立派な人になってほしいと、毎日生懸命鉛筆を作りました。



鉛筆の軸には、北米産のインセンスシダーという木が柔らかくて削りやすく、木目も揃っているのが最適でした。今日は雨のため外で植樹ができませんでしたが、将来、皆さんがこの木を荒川区の象徴として大きくさせてくれることを願っています。」と挨拶が行われました。

そして、西川太一郎荒川区長からの「ご祝辞」、会場校の伊津寿美校長先生ならびに児童代表からの「お礼の言葉」をいただき、最後に全員で記念撮影を行いました。



### 【荒川区内植樹校】

第二瑞光小学校、第三瑞光小学校、汐入小学校、尾久西小学校、尾久第六小学校、第一日暮里小学校、第三日暮里小学校、第六日暮里小学校、峡田小学校、第三峡田小学校、第五峡田小学校、大門小学校、第三中学校、第五中学校、第七中学校、尾久八幡中学校、諏訪台中学校、尾久第二幼稚園（以上）

## 平成24年第1・2四半期委員会部会活動

### <総務 関係>

2. 21 書育推進協議会運営委員会  
 ・H23年度下期活動について  
 ・会計状況報告  
 ・H24年度活動構想について  
 ・H23年度第2期投稿作品第二次審査
3. 9 総務委員会 (H23年度 第4回)  
 ・H23年度決算見通しとH24年度予算案について  
 ・書育推進協議会活動状況報告について  
 ・その他
4. 3 総務委員会 (H24年度 第1回)  
 ・H23年度事業報告書(案)及び収支決算(案)について  
 ・H24年度事業計画(案)及び収支予算(案)について  
 ・理事選任の件について  
 ・H24年度 第1回 理事会開催について  
 ・第11回 通常総会について  
 ・その他
4. 23 書育推進協議会運営委員会  
 ・第2回書育実践大賞について  
 ・書育実践研究会について  
 ・H24年度活動について  
 ・その他
5. 25 書育推進協議会運営委員会  
 ・H24年度事業計画について  
 ・第2回書育実践賞応募状況について  
 ・会報9号紙面構成について  
 ・その他
6. 19 総務委員会 (H24年度 第2回)  
 ・秋～年末の行事計画について  
 ・日本表面科学会関西支部「市民講座」協賛の件  
 ・書育推進協議会活動状況について  
 ・その他

### <調査研究・広報 関係>

1. 17 調査研究・広報委員会(H23年度 第5回)  
 ・お役立ち情報「鉛筆編」について  
 ・その他
3. 6 調査研究・広報委員会(H23年度 第6回)  
 ・お役立ち情報「鉛筆編」について  
 ・JWIMA 技術交流会リニューアルについて  
 ・その他
6. 6 調査研究・広報委員会(H24年度 第1回)  
 ・JWIMA 技術交流会リニューアルについて  
 ・JWIMA 通信第36号紙面構成につ

いて  
 ・その他

### <流通 関係>

2. 23 お客様相談窓口連絡会 (H23年度 第5回)  
 ・各社のお客様対応事例について  
 ・お役立ち情報(マーキングペン編)の見直しについて  
 ・その他
4. 25 お客様相談窓口連絡会 (H24年度 第1回)  
 ・各社のお客様対応事例について  
 ・お役立ち情報(マーキングペン編)の最終確認について  
 ・その他
6. 21 お客様相談窓口連絡会 (H24年度 第2回)  
 ・各社のお客様対応事例について  
 ・H24年度活動テーマについて  
 ・その他

### <技術国際 関係>

1. 20 事務用修正液 JIS 改正原案作成分科会 (H23年度 第3回)  
 ・第2回本委員会宿題事項に関する協議  
 ・改正 JIS S 6055 の解説についての検討  
 ・JIS S 6055 改正審議経過報告書について
1. 23 マーキングペン部会 (平成23年度 第4回)  
 ・ISO/CD 11540-1, -2 への対応について  
 ・インクジェットはがき用紙再筆記試験結果報告  
 ・その他
2. 15 ボールペン部会 (H23年度 第1回)  
 ・マーキングペン部会におけるIJはがきへの実筆記調査報告  
 ・IJはがきに書いた時のクレーム集計と現品調査結果の検討  
 ・その他
2. 16 製品安全小委員会 (H23年度 第4回)  
 ・PCB について  
 ・アゾ染料について  
 ・筆記具安全基準について  
 ・安全性関連情報について  
 ・その他、各社からの情報



3. 7 prEN71-3 勉強会  
 ・prEN71-3 の概要ならびに分析方法について  
 講師：(財)日本文化用品安全試験所 理事 化学分析センター長 宮本真一氏
3. 16 マーキングペン部会（平成 23 年度 第 5 回）  
 ・H23 年度下期活動報告及び H24 年度活動計画について  
 ・ISO/CD 11540 -2 の日本からの変更案に対するイギリスコメントの審議  
 ・その他
3. 16 技術国際委員会（H23 年度 第 2 回）  
 ・H23 年度下期各部会活動報告について  
 ・国際標準提案活動報告について  
 ・その他
4. 26 ISO/TC10/WG18 エキスパート会議  
 ・ISO/TC10/WG18 meeting in Orlando について  
 ・ISO/CD 11540-1, -2 への対応について
5. 9 ISO/TC10/WG18 エキスパート会議  
 ・ISO/TC10/WG18 meeting in Orlando における ISO/CD 11540-1, -2 への対応について  
 ・その他
5. 24 製品安全小委員会（H24 年度 第 1 回）  
 ・ISO/TC10/WG18 meeting（オランダ会議）120515 報告  
 ・安全関連情報について  
 ・その他
6. 18 鉛筆・シャープ合同部会（H24 年度 第 1 回）  
 ・シャープペンシル部会長・鉛筆副部会選任の件  
 ・鉛筆・シャープ用しん JIS 改正の件  
 ・その他
- <全文協との共催 関係>
1. 26 知財リーダー会議  
 3. 9 知財リーダー会議  
 3. 21 合同知的財産部会  
 4. 16 模倣品対策セミナー打合せ  
 6. 6 知的財産権特別セミナー打合せ  
 6. 27 知的財産権特別セミナーリハーサル
- 以上

## JWIMA 委員会・部会 紹介 ① = マーキングペン部会 =



- 【部会長】伊波 泰（ぺんてる株）
- 【委員】香川伸一（株呉竹）、岡本正也（株壽）、塩井恵子（株サクラクレパス）、上谷謙二（シヤチハタ株）、千葉克多（ゼブラ株）、高橋英俊（セーラー万年筆株）、谷田元彦（寺西化学工業株）、牛若 円（株トンボ鉛筆）太田義之（パイロットインキ株）、植田恭裕（ぺんてる株）、佐藤匡之（株マービー）、古澤光彦（三菱鉛筆株）
- 【関係者】中 秀幸（ゼブラ株）

マーキングペン部会では、マーキングペンの技術及び品質の向上に関する事項や JIS S 6037（マーキングペン）改正の際の原案作成を主に活動として行ってまいりました。これまでの活動を振り返りますと、2005～2007 年にかけては「ほうろう白板用マーキングペン」の業界基準作成。2008 年からは JIS S 6037 の見直し及びカテゴリー別業界基準作成の検討や、それに基づくラインマーカーの業界基準案作成を行いました。そして、2011 年からは英国の BS7272-1（安全キャップ）、BS7272-2（安全尾栓）を ISO 化する提案が動き始め、日本としてそれらにどう対抗するかを検討を始めました。日本としては、安全キャップはある程度対応が取れていますが、安全尾栓に関しては設計変更や金型修正で大きな負担が生じるため何としても阻止する必要がありました。そのため尽力したのが上記メンバーです。（以上）

## ISOT 2012 知的財産権特別セミナー 開催

2012. 7. 5 東京ビッグサイト 主催：(社) 全日本文具協会・日本筆記具工業会



ISOT2012 の開催2日目、特設セミナー室にて知的財産権特別セミナーが開催されました。当日参加者は110名と過去最高の盛況ぶりとなりました。

セミナーは2部構成で、第一部では「展示会及び市場における模倣品調査手法と効果的対応」について、中国調査機関であるQCACの江藤真愛氏より分かりやすく解説いただきました。第二部は「商標権をめぐる係争と解釈」をテーマに、有名菓子商標での係争をモデルに

模擬裁判を行い、商標権に関する訴訟の基礎知識を分かりやすく解説が行われました。模擬裁判での裁判長役はゼブラ(株)知的財産部担当部長の秋山守雄氏、原告代理人役をコスモ国際特許事務所所長の水野清氏、被告代理人役を創英国際特許法律事務所副所長の黒川朋也氏、参考人を特許庁上席産業財産権専門官の播磨良悦氏がそれぞれ演じ、模擬法廷での係争を分かりやすく説明いただきました。

## お知らせ

●JWIMAホームページのお役立ち情報に、新たに「鉛筆編」が加わりました。

### 【構成】



- ・鉛筆の歴史  
(鉛筆のはじまり、日本では…)
- ・鉛筆の種類
- ・鉛筆のできるまで  
(鉛筆のできるまで、鉛筆の製造工程)
- ・鉛筆の正しい持ち方
- ・鉛筆のあれこれ

<http://www.jwima.org/pencil/O1top/top.html>

●秋から年末にかけての行事日程が決まりましたのでご紹介いたします。

内容の詳細については、現在企画中ですので順次ご案内していきます。

★9/27(木) 第9回会員親睦ゴルフコンペ  
(桃里カントリー倶楽部/栃木県下都賀郡岩舟町)  
これまでの実績からハンデを計算し、HC制で行います。(初参加の人は自己申告してもらい、調整を加えます。3組に満たない場合は中止。)

★10/23(火) 会員研修会  
(浅草橋・ベルモントホテルを予定)

★11/14(水) 優良工場見学会  
(見学先は、現時点で未定)

★12/5(水) 年末講演会・懇親会  
(上野精養軒にて、講師は現在交渉中)

●書育フォーラム2012を開催します。  
日時 平成24年8月22日(水) 14:30～  
場所 女性就業支援センター(JR田町駅3分)  
主催 書育推進協議会  
内容 ①書育実践賞 授賞式・発表会  
②講演会

テーマ：「読書は、なぜ必要なのか」  
講師：渡辺鋭氣氏(公益財団法人 文字・活字文化推進機構 専務理事)  
参加費 1,000円(資料代として)  
※是非お誘いあわせのうえご参加ください。

●JIS S 6055(事務用修正液)の改正原案作成作業が完了しました。

主な改正点は、次のとおり。

- (1) 品質要件において「有害物質」の箇条を設けた。  
他の筆記具関係 JIS と同様に、有害重金属 8 元素の規制値を明確にした。
  - (2) 材料および構造において、使用者の健康安全上、溶剤の使用禁止規制を設けた。
  - (3) 検査方法において、JIS Z 8301 に従い「形式検査」と「受渡検査」に分けて規定した。
- ※改正 JIS の発行は、本年度内の予定。

(以上)

## 2011年の出荷・輸入・輸出 =年間=

繊維・生活用品統計(旧雑貨統計)より (国内向け販売と輸出向け販売を含む)

金額:百万円

出荷	単位	2011年間		2010年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	456,645	26,634	461,156	26,367	-1.0	1.0
ボールペン(水性)	千本	938,702	33,862	906,274	34,744	3.6	-2.5
マーキングペン	千本	721,192	33,684	714,410	33,600	0.9	0.3
シャープペンシル	千本	153,934	14,399	157,396	13,733	-2.2	4.8
鉛筆	G	1,636,715	5,647	1,715,179	5,860	-4.6	-3.6
シャープしん	千本	3,251,715	4,327	2,851,012	4,038	14.1	7.2
修正液	千本	33,355	2,583	31,521	2,505	5.8	3.1
修正テープ	千個	62,072	4,930	72,003	6,353	-13.8	-22.4
クレヨン・パス	千本	129,768	3,828	91,713	1,643	-6.9	1.5
水彩絵の具	千本			47,647	2,130		
			129,894		130,973		-0.8

日本貿易統計より(抜粋)

輸出	単位	2011年間		2010年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	188,642	6,537	192,377	6,667	-1.9	-1.9
ボールペン(水性)	千本	662,051	26,434	619,415	25,358	6.9	4.2
マーキングペン	千本	359,395	14,151	337,876	13,210	6.4	7.1
シャープペンシル	千本	93,390	5,709	93,402	5,547	0.0	2.9
万年筆	千本	8,239	898	6,038	874	36.5	2.7
製図用ペン	本	88	0	54,280	4	-99.8	-90.0
以上のセット品	千個	979	125	833	108	17.5	15.7
黒芯鉛筆	Kg	80,787	225	106,261	295	-24.0	-23.7
色芯鉛筆	Kg	59,558	219	53,002	196	12.4	11.7
修正液	千個	23,319	1,615	23,000	1,595	1.4	1.3
修正テープ	個	223,750	57	352,277	39	-36.5	46.2
			55,970		53,893		3.9

日本貿易統計より(抜粋)

輸入	単位	2011年間		2010年間		前年変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン	千本	221,799	5,793	217,439	5,733	2.0	1.0
マーキングペン	千本	184,890	3,062	162,813	2,832	13.6	8.1
シャープペンシル	千本	44,146	1,208	43,609	1,358	1.2	-11.0
万年筆	千本	1,119	952	2,289	1,074	-51.1	-11.4
製図用ペン	本	10,162	12	5,830	7	74.3	71.4
セット品	千個	960	93	1,269	97	-24.3	-4.1
黒芯鉛筆	Kg	701,199	747	685,618	648	2.3	15.3
色芯鉛筆	Kg	1,415,610	1,108	1,450,508	1,138	-2.4	-2.6
修正液	千個	2,387	54	2,411	63	-1.0	-14.3
修正テープ	千個	51,513	1,663	56,749	1,972	-9.2	-15.7
			14,692		14,921		-1.5

(注)2011年より繊維・生活用品統計では、シャープしんは品目削除、クレヨン・パスと水彩絵の具は品目統合となりました。  
「出荷」におけるシャープしんの実績は、JWIMA独自の統計調査によるものです。